

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

昭64-64191

⑤ Int. Cl.⁴

G 11 B 33/12

識別記号

3 1 3

庁内整理番号

D-8842-5D

⑬ 公開 昭和64年(1989)3月10日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑭ 発明の名称 音響装置

⑰ 特 願 昭62-222331

⑱ 出 願 昭62(1987)9月4日

⑲ 発 明 者	栗 本	昌 彦	大阪府門真市大字門真1006番地	松下電器産業株式会社内
⑲ 発 明 者	末 藤	幹 生	大阪府門真市大字門真1006番地	松下電器産業株式会社内
⑲ 発 明 者	中 村	晃 治	大阪府門真市大字門真1006番地	松下電器産業株式会社内
⑲ 発 明 者	山 崎	孝 善	大阪府門真市大字門真1006番地	松下電器産業株式会社内
⑳ 出 願 人	松下電器産業株式会社 大阪府門真市大字門真1006番地			
㉑ 代 理 人	弁理士 中尾 敏男 外1名			

明 細 書

1、発明の名称

音響装置

2、特許請求の範囲

表キャビネットと裏キャビネット突き合わせにより上記キャビネットに設けた隔壁に分離される空間の一方にスピーカおよび電源トランスを収容し、他方の空間にコンパクトディスクプレーヤのメロニズムを収容し、コンパクトディスクプレーヤをスピーカおよび電源部から音圧及び振動並びに熱的に独立させた音響装置。

3、発明の詳細な説明

産業上の利用分野

本発明は、コンパクトディスクプレーヤとスピーカとを一体形のキャビネット内に収納した音響装置に関するものである。

従来の技術

近年、音響装置は低音部を強調した音づくりがなされている。

従来から低音部を強調するためにラジオ・テ-

ブ・コンパクトディスク等の操作部を司さどる本体部と、スピーカのみを収納したスピーカボックス部との3体からなるセパレート形のステレオ音響装置が知られている。このように構成された音響機器は、スピーカボックスが左右に音響的に独立しており、特に低域部ではお互いの影響を受けない為に左右の音の分離が明確にされるという利点があるが、部品点数の増大によりコスト高になるという欠点を有していた。

そこで、本体部としてのセンター空間とスピーカボックス部としての左右のサイド空間とを一体化したキャビネットとし、本体部とスピーカボックス部の間に設けた隔壁にて左右の音の分離を明確にしようとする試みがなされている。この場合、キャビネットのセンター空間にはコンパクトディスクプレーヤおよび電源装置としてのトランスが収容配置されている。

発明が解決しようとする問題点

しかしながら、従来の一体化キャビネットを備える音響装置では、キャビネットのセンター空間

に熱源としての電源トランスが配置されており、そのセンター空間には他にコンパクトディスクプレーヤが収容配置される関係で、コンパクトディスクプレーヤの光ピックアップを構成するレーザダイオードに電源トランスから発生する熱が作用し、レーザダイオードの寿命特性を悪化させるという問題があった。

本発明は、上記問題点を解決しようとするものであり、簡単な構成で左右スピーカを音質的に独立させることができ、音圧、振動、熱の影響を効果的に防ぐことができる優れた音響装置を提供することを目的とするものである。

問題点を解決するための手段

本発明の音響装置は、表キャビネットと裏キャビネットに設けられた隔壁を突き合わせることで、コンパクトディスクプレーヤの収納空間に対しスピーカの収納空間を独立させ、かつ上記スピーカの収納空間に電源部を収容することによりコンパクトディスクプレーヤをスピーカ部および電源部から音響的、熱的に独立させたことを特徴と

ト3の一方のスピーカ収納空間に配置した電源装置としてのトランス、7は上記裏キャビネット3の天面に装着されるコンパクトディスク用の箱体10および操作パネル11を備えるサブキャビネットである。

このような構成の音響装置では、表裏キャビネット1,3を組み合わせた時、表キャビネット1より設けられた隔壁2と裏キャビネット3より設けられた隔壁4とが左右に一体にあり、これらの隔壁2,4が第5図に示すように突合わされて嵌合する。これによりスピーカ6と電源トランス8を独立させることができ、又、隔壁2,4の先端面が嵌合している為に密閉のボックスを形成することができる。これにより、スピーカ6からその後面に発生する低周波の音波がカセットメカニズム8のすきまから前面にまわり込むのを防止する。いわゆるバッフル効果と、左右の音波が機器本体の中央付近で干渉し合うのを防止することを一体形のキャビネットで実現できる。

以上のように本実施例によれば、左右一対の隔

するものである。

作 用

本発明の音響装置は、上記した構成によりスピーカ部、電源部、機器機能部としてのコンパクトディスクプレーヤ部を一体のキャビネットに収納して構成できることとなる。

実 施 例

以下、本発明の実施例の音響装置について図面と共に説明する。第1図～第6図は本発明の一実施例を示す。

第1図～第6図において、1は表キャビネットであり、左右にスピーカ6が内側から取着されている。この表キャビネット1の内面には平行な隔壁2が突設されており、これらの隔壁2間にテーブルレコードのカセット装着用の凹部が設けられている。3は裏キャビネットであり、平行な隔壁4が内側に突設されており、これらの隔壁4間にテーブルレコードのためのメカニズム8が収納されると共にコンパクトディスクプレーヤのためのメカニズム9が収納されている。6は上記表キャビネッ

壁を設けることにより、スピーカ分離形の音響機器と同様に低域を強調した音質を得ることができると共に、コンパクトディスクプレーヤを音響的にスピーカ部から独立させて音飛びを防止することができる。また、コンパクトディスクプレーヤは熱的にも電源部から独立しており、寿命特性の劣化を効果的に防止することができる。

なお、本実施例では表キャビネットの隔壁2と裏キャビネットの隔壁4とでスピーカ6を独立させたが、いずれか一方の隔壁を拡張し、他方を廃止することもできる。

発明の効果

以上のように本発明は、表キャビネットと裏キャビネットの突き合わせによりキャビネットに設けた隔壁にてコンパクトディスクプレーヤに対しスピーカ部と電源部を独立させたので、低域を強調した音質を実現することができ、又、コンパクトディスクへの音圧、振動、熱的な影響を防ぐことが低コストで容易に実現することができる。

4、図面の簡単な説明

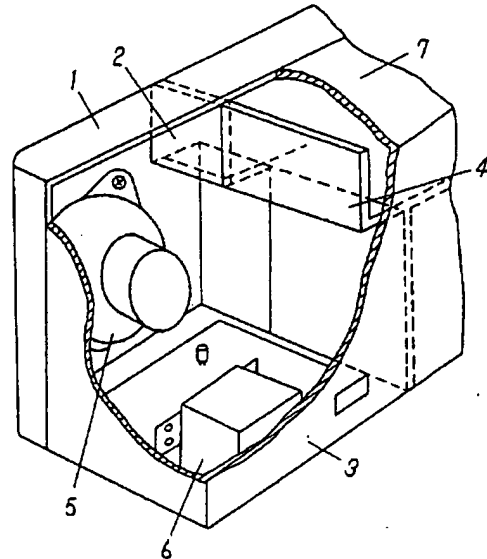
第1図は本発明の一実施例を示す音響装置の主要部を示す切欠斜視図、第2図は同装置の分解斜視図、第3図は同装置の組立全体斜視図、第4図は同装置の要部の側面断面図、第5図は第4図のA-A拡大断面図である。

1……表キャビネット、2……隔壁、3……裏キャビネット、4……隔壁、5……スピーカ、6……電源トランス、7……コンパクトディスクレーヤのメカニズム、8……カセットメカニズム。

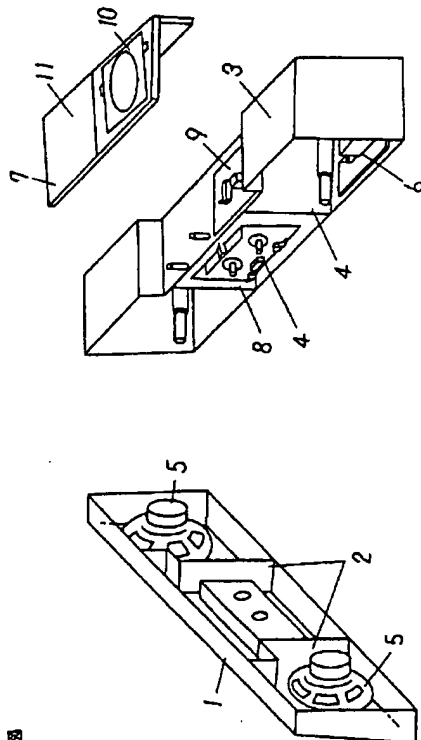
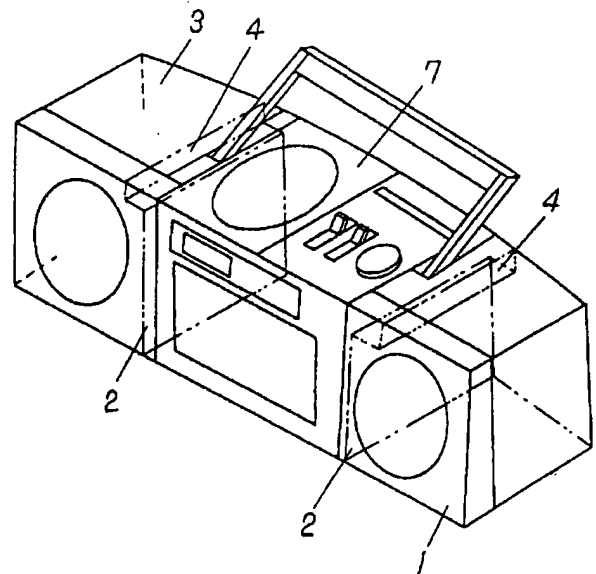
代理人の氏名 弁理士 中 尾 敏 男 ほか1名

1ー表キャビネット
2,4ー隔 壁
3ー裏キャビネット
5ースピーカ
6ー電源部

第 1 図

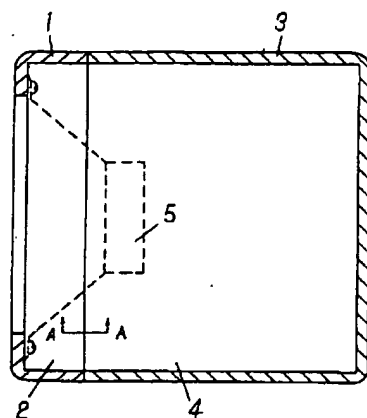


第 3 図



第 2 図

第 4 図



第 5 図

